

◇◆特集◆◇

★新たな国土形成計画（広域地方計画）の策定について★
（国土交通省 国土政策局 広域地方政策課）

平成28年3月に新たな国土形成計画（広域地方計画）が国土交通大臣決定された。本格的な人口減少社会において、「対流促進型国土」の形成を基本コンセプトとし、「稼げる国土」、「住み続けられる国土」を実現するため、ブロックごとにインフラストック効果を活かした特色ある地域戦略を示している。

◇◆訴訟事例紹介◆◇

★原動機付自転車を運転中、
1か月前弱に補修した道路にて発生していたくぼみにはまり、
転倒し、負傷した事故について、道路の設置・管理瑕疵が争われた事例★
＜平成27年2月3日 熊本地方裁判所判決＞
（国土交通省 道路局 道路交通管理課）

【事案の概要】

本件は、原動機付自転車を運転して県道を走行中、1か月前弱に補修した道路にて発生していたくぼみで転倒し、負傷した事故に関し、被告には道路整備義務違反があると主張し、道路管理者に対して、国家賠償法1条1項又は同法2条1項に基づく損害賠償請求をした事案。

【判決要旨（一部容認）】

本件事故現場道路は、大型車両や原告車両のような軽量の車両、さらには自転車等も通行する道路なのであるから、深さ最大約10cmのくぼみがある状況が通行車両等にとって危険であることは明らかである。また、本件事故現場は、以前からくぼみが生じやすい場所であり、本件事故の1か月前弱に補修工事を行ったにもかかわらず、くぼみができていた。被告としては、応急的な補修工事ではなく、より抜本的なくぼみ対策を行うべきであったといえる。以上のことから、被告は、国家賠償法2条1項に基づき、原告に対し、原告が本件事故により被った損害を賠償する責任を負う。

◆◆TOPICS◆◆

★道路維持管理のコスト削減に向けた取り組みについて★ ～DRIMS NAGASAKI（道路性状の簡易評価システム）の導入～

（長崎市役所土木部土木維持課 森尾宣紀／長崎大学大学院工学研究科 西川貴文）

市内にある道路施設を、市民が安全に使い続けていくために、長崎市では平成 26 年度から長崎大学との連携による安価で持続可能な道路管理の検討を進めている。本稿では、道路舗装の異常個所を早期に発見し、危険を回避するとともに、計画的に舗装の再整備を行うための舗装の劣化度を評価できるシステムとして導入を進めている DRIMS NAGASAKI（長崎市版道路ラフネス評価システム）について紹介する。

◆◆地域における道路行政に関する取り組み事例◆◆

★「四国広域道路啓開計画」の策定について★

（国土交通省 四国地方整備局 道路部 道路管理課）

四国では、四国内の道路管理者、自衛隊、警察、消防、建設業協会、インフラ事業者等の関係機関で構成する「四国道路啓開等協議会（会長 四国地方整備局 道路部長）」において、平成 28 年 3 月 24 日に「四国広域道路啓開計画」を策定しました。本稿では、迅速な道路啓開が可能となるよう本計画で定めた、南海トラフ地震発生時における四国の道路啓開の考え方や手順、事前に備えるべき事項等をご報告します。

.....

★秋田県における道路維持管理の取り組みについて★

～橋梁長寿命化計画の策定・道路管理ポータルシステムの構築～

（秋田県 建設部 道路課）

道路施設の老朽化等に伴い、これらの維持管理は、道路管理者の喫緊の課題となっている。本稿では、秋田県における橋梁長寿命化に向けた取り組みと「秋田県橋梁長寿命化計画」について説明する。また、道路の維持管理業務の効率化のため構築した「秋田県道路管理ポータルシステム」について合わせて説明する。

.....

★平成24年度の豪雪を受けた取り組み★
＜秋田市道路除排雪車両運行管理システム＞
(秋田市 建設部 道路維持課)

秋田市では、平成24年度の記録的な豪雪の際に除排雪が間に合わず、市民生活に不便が生じた経験から、GPSを活用した「秋田市道路除排雪車両運行管理システム」を導入した。本システムの導入により、除雪車の位置情報の公開、除雪箇所への把握、作業時間の集計が可能となり「市民満足度の向上」と「事務作業の軽減」を図っている。

.....

★横手市における道路維持管理について★
～橋梁長寿命化、路面性状調査～
(秋田県 横手市 建設部 建設課)

横手市では、1級・2級市道路線を対象に効率的・計画的な舗装補修の実施のため、平成25年度に1回目の路面性状調査を実施し、補修路線選定の参考としている。

また、平成23年度には「横手市橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、「対症的修繕」から「予防保全的修繕」への転換を図り、今後増加が見込まれる老朽化橋梁へ備えることとしている。

◆◆お知らせ◆◆

★『道きれい そんな所は 人きれい』★
～平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、道路の意義・重要性について改めて考えて頂くことを目的に、推進標語を広く一般から募集しました。

審査懇談会における厳正な審査の結果、応募総数4,987作品の中から、「小学生の部」[中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が選定されました。

◆◆編集後記◆◆

湿度の多い季節になりました。梅雨の時期には、湿度が 80%くらいまで高くなることもあり、カビやダニの繁殖に適した環境となります。普段から気をつけてはいますが、水を多く使う台所や浴室はもちろんのこと、湿気がこもりがちとなる押入や靴箱などの風通しに注意を払うなど、なにかと湿度が気になります。また、髪の毛は湿気を吸収して広がり、気温は高くないはずなのに蒸し暑さを感じ、不快な気持ちになることも多くあります。このように、日常生活では過ごしにくい季節という印象のある梅雨ですが、この季節に降る雨は、これから気温が高くなる夏を迎えるにあたって、とても大切です。

日常生活では、蛇口をひねれば水が出るのが当たり前なので、水が貴重な資源であることを忘れてしまうことがあります。また、日本は、隣国と国土が接していないことから、水をめぐる争いが起こらず、水の大切さに気づく機会が少ないことも少なからず影響していることと思います。一方で、国際社会では河川は複数の国家間を流れていることから、水の問題は国家間の紛争の原因となることもあり、また、世界では 12 億人の人が、安全な水を利用することができない状況にもあるといわれています。世界に目を向ければ、とても恵まれた環境で生活していると思います。

国土交通省の発表によると、首都圏のみずがめである利根川水系の 8 つのダムの貯水率がこの時期としては最低の 37% (6 月 13 日 0 時時点) となり、水不足が懸念されています。水不足に関連する話題を見聞すると、学校で開催される水泳教室が中止になって、とても残念な気持ちで過ごした夏休みを思い出してしまいます。しかしながら、思い返してみれば、水を貴重な資源として大切にしなければと思い行動する機会は、水不足という現実が突き付けられたひとときだけです。ひとりの力では、できることは限られてはいますが、節水を心がけようと改めて感じています。そして、この水不足が深刻な事態とならずに、子供たちが暑い夏に元気にプールで遊べるよう、まとまった雨が降ることを願っています。

(U)